

令和7年度 第1回 TAITO フューチャースクール検討委員会

開催日	令和7年5月9日(金) 午前9時00分から午前10時30分まで
場所	台東区立上野小学校
出席委員	高橋委員、土肥委員、小出委員、田中委員、渡邊委員、佐々木委員、山田委員、中島委員、宮脇委員、増嶋委員
欠席委員	垣野委員、仲田委員
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ① 資料1 「TAITO フューチャースクール」検討委員会設置要綱 ② 資料2 「TAITO フューチャースクール」検討委員会委員名簿 ③ 資料3 TAITO フューチャースクール ロードマップ ④ 資料4 令和7年度第1回TAITO フューチャースクール検討委員会 事務局説明資料 ⑤ 資料5 「TAITO フューチャースクール」の実現に向けた方向性 ⑥ 資料6 研究モデル校報告(上野小学校) ⑦ 資料7 研究モデル校報告(駒形中学校) ⑧ 参考資料1 中央教育審議会「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)」 【総論解説】 ⑨ 参考資料2 「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」 最終報告 【概要】 ⑩ 参考資料3 創造的な学習空間の創出に関する調査研究 報告書概要 ⑪ 参考資料4 「東京都学校教育情報化推進計画」 説明資料

■議事概要

1. 開会

2. 議事

(1)【事務局報告】ア 検討委員会の目的・スケジュール等

資料③について、増嶋委員より説明

- ・ TAITO フューチャースクール ロードマップについて説明。
- ・ 令和8年度末に最終報告として成果報告書を作成予定。
- ・ 春日井市立高森台中学校への視察を予定。

【事務局報告】イ 検討事項

資料④⑤について、増嶋委員より説明

- ・ 「TAITO フューチャースクール」のコンセプト:「一人一人が学びの主役として活躍し、自分や世界を変革していく学びを実現する」
- ・ 「3つのI」について説明:①「I:学びの主役は一人一人の子供、子供を導く一人一人の教師」、②「ICT:個別最適な学びと協働的な学びを実現するための学習基盤としてのICT」、③「Inquiry:子供(教師)同士の学び合いと多様な他者と協働した探究」
- ・ 区内の学校における校務DX化チェックリストの結果を共有し、学校間格差の課題を提起。
- ・ 検討事項として、①研究校における授業実践の検証及び課題解決、②研究校における学習環境の検証及び課題解決、③校務DX化及び教育データの利活用の促進、④中間報告事項及び資料作成を挙げた。
- ・ 【高橋委員長】ICTは目的ではなく手段であり、教育活動のねらいを達成するための活用が重要。ICT

を使うこと自体が目的化すると、本来の教育目標を見失う恐れがある。

- ・【増嶋委員】校務 DX チェックリストの学校間格差について、管理職のリーダーシップと ICT 担当教員の意識・行動が重要だ。特に、教員の ICT リテラシーの底上げが急務である。
- ・【佐々木委員】台東区全体としての学校間格差を少なくする必要がある。
- ・【土肥委員】校務の DX には魅力があるが、教育活動における ICT 活用には疑問がある。効率化できる部分と実際の教育的効果のバランスに懸念があり、ICT 活用における明確な軸の必要性を感じた。

(2)【研究校報告】ア 上野小学校

資料⑥について、田中委員より説明

- ・「これからの時代を拓く学校創り」をテーマに「子供の頭・心・体をフル回転させる」教育活動を推進。
- ・一斉指導と自己調整による学びのバランスを重視している。
- ・授業改善、デジタル活用・校務 DX 工夫、学校環境の検討のためのワーキンググループ活動を実施。
- ・東京都教育委員会「デジタルを活用したこれからの学び推進地区」実践校として年間 7 回の研究授業を実施予定。
- ・【田中委員】デジタル活用と紙媒体の使用のバランスについても考慮している。特に低学年では、手を動かして書く活動も大切にしながら、適切な場面で ICT を活用する判断が必要だ。
- ・【高橋委員長】パーソナライズされた学習の重要性について言及。多様な子供たちがそれぞれに適した学び方で学ぶための支援が必要。今後は学習データを活用した個別最適な学びの実現を目指すべき。

【研究校報告】イ 駒形中学校

資料⑦について、渡邊委員より説明

- ・「主体的に学習に取り組む態度の育成」をテーマに基礎研究を行っている。
- ・授業規律の確立と基礎学力向上の取組を継続中。
- ・教室以外での学習空間活用による新たな学習形態を試行し、自由度のある学習環境で生徒の主体性が向上。
- ・アンガーマネジメントと修復的対話を重視した人間関係構築に取り組んでいる。
- ・研究内容：①授業導入場面での ICT 活用、②他者参照・学び合いでの活用、③振り返り・自己調整・評価での活用。
- ・【渡邊委員】中学校での実践では、生徒が教師よりも先に ICT の活用法を発見することも多い。生徒の創造性を活かす姿勢が教師にも求められている。また、ICT を活用した協働的な学びが生徒間の人間関係構築にも良い影響を与えている。
- ・【小出委員】中学生の保護者として、デジタル機器持ち帰りへの関心がある。
- ・【高橋委員長】学校教育では「自己調整」の姿勢を育むことが重要である。小学校高学年から中学生に対して、学びは「自己調整の連続」であることを伝えていくべきである。

(3)次回開催予定

令和7年7月15日(火)午後4時00分から

3. 閉会